

あなたとあなたの大切な人を守る HPV ワクチン

最近「HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチン」についてニュースなどで聞くようになったのではないのでしょうか。2013年より厚生労働省は、過去に副反応と疑われる報告が相次いだため、HPVワクチンの「積極的な勧奨は控える」としていました。しかし、有効性を示す研究データが相次いで明らかになったことなどから、厚生労働省は2021年11月12日に「HPVワクチンの積極的推奨を再開すること」を了承しました。そこで、今回は話題の「HPVワクチン」についてお話をしようと思います。

目次

- ① HPVはどんなウイルス？
- ② 子宮頸がん と HPV の関係
- ③ HPV ワクチンの種類
- ④ HPV ワクチンの有効性
- ⑤ 日本の接種率はとても低い！？
- ⑥ 健保健師からの一言



① HPV はどんなウイルス？

HPV（ヒトパピローマウイルス）とは **子宮頸がんの原因となるウイルス**です。

HPV は**私たちの身の回りにありふれたウイルス**で、普段の生活の中でだれでも感染する可能性があるウイルスであり、主に性交渉などの刺激によって感染します。

女性のおよそ8割は、HPVに一度でも感染したことがあると推定されています。

HPVには200種類以上のタイプ（遺伝子型）が見つかっています。

タイプは大きく2つに分類されます。

○がんの原因となる「ハイリスク HPV」

子宮頸がんのほかにも、中咽頭がん、陰茎がん、肛門がん、膣がん、外陰がんなど男性もかかるがんの原因にもなります。

（具体的な型：HPV16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 66, 68 型）



○良性のイボの原因となる（＝「がん」の原因にはならない）「ローリスク HPV」

尖圭コンジローマの原因となります。

（具体的な型：HPV6, 11, 42, 43, 44 型）

② 子宮頸がん と HPV の関係

HPVに感染しても**通常は自然に排除**されるのですが、**長い間感染が続いた場合は細胞が少しずつがん細胞へと変化**していくことがあります。10人に1人ほどの割合でHPV感染が続いてしまい、その状態が5～14年続くと、子宮頸部異形成と言われる子宮頸がんの前段階、もしくは子宮頸がんが発症すると報告されています。

日本では国内の子宮頸がんの患者さんは、年間11,000人程度（2017年）であり、最近では特に**若い年齢層（20～39歳）**で患者さんが増えており、年代別にみた患者さんの数は、**20代後半から増えていき、40代でピークを迎えます。**

（参照：厚生労働省 HPV ワクチン Q&A
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/qa_shikyukeigan_vaccine.html）

<日本における子宮頸がんの原因となっている HPV の種類は？>

子宮頸がんの 60～70%は HPV16・18 型によります。

(子宮頸がんの 40～50%は HPV16 型、20～30%は HPV18 型が原因となります。)
HPV31、33、52、58 型がこれに続いて、子宮頸がんから検出されています。

子宮頸がんになる危険度は、HPV16・18 型感染がある女性は、感染のない女性の 200～400 倍高いとされています。また、HPV16・18 型は、感染してからがんに向かうスピードが速いです。

(参照：日本産科婦人科学会「子宮頸がん予防についての正しい理解のために (第 3.1 版 2020 年 7 月 21 日)」
https://www.jsog.or.jp/uploads/files/jsogpolicy/HPV_Part1_3.1.pdf)

③ HPV ワクチンの種類

HPV ワクチンには、2 価、4 価、9 価の 3 種類があります。

この『価』というのは、『何種類の HPV 型の感染を予防できるか』という意味です。

2 価は HPV 16, 18

4 価は HPV 6, 11, 16, 18

9 価は HPV 6, 11, 16, 18, 31, 33, 45, 52, 58 の感染を予防することができます。

★2 価で予防できるのは、**子宮頸がんの原因として最もハイリスク**の HPV 16, 18 で、
子宮頸がんの**約 6～7 割**を予防

★4 価は、2 価に加えて、尖圭コンジローマの原因となる HPV 6, 11 型の感染を予防

★9 価は、4 価に加えて、子宮頸がんの原因となりうる HPV 型をさらに 5 種類予防できるため、
子宮頸がんの**約 9 割**を予防

(参照：国際パピローマウイルス学会の啓発キャンペーンの公式パートナーであるみんパピ「HPV ワクチンの種類について」
<https://minpapi.jp/>)

④ HPV ワクチンの有効性

子宮頸がんを予防するには、**小学校 6 年生～高校 1 年生の間 (定期予防接種の時期)** に HPV ワクチンを接種することが理想です。

HPV ワクチンは特定のタイプの HPV 感染を防ぐことができますが、これには「初めてハイリスクの HPV ウイルスに感染する前 (性交渉を行う前) に接種しておく」ことが、最も大きな効果を得られるからです。



※定期予防接種があります。

現在、定期接種の対象者は「小学校 6 年生～高校 1 年生年齢相当の女子」としており、接種費用は無料です。周りに対象者がいる方は、情報をお伝えしてみたいか
がでしょか。

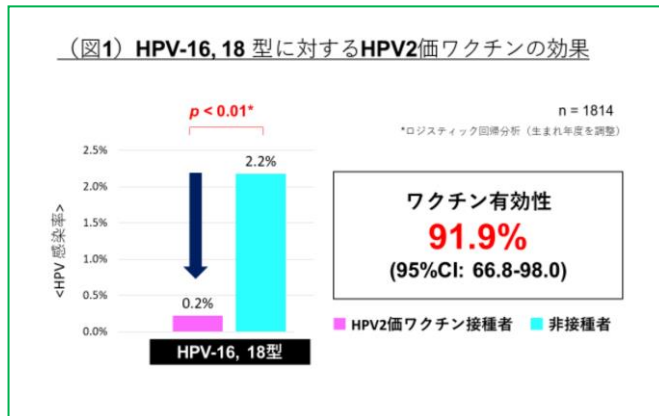


○HPV ワクチン接種を国のプログラムとして早期に取り入れた、オーストラリア・イギリス・米国・北欧などの国々では、HPV 感染や前がん病変の発生が有意に低下していることが報告されています。

(参照：日本産科婦人科学会「子宮頸がん HPV ワクチンに関する正しい理解のために (第 3.1 版 2020 年 7 月 21 日)」
https://www.jsog.or.jp/uploads/files/jsogpolicy/HPV_Part1_3.1.pdf)

○国内においても複数の HPV ワクチンの有効性についての研究が進行中です！

新潟県で行われている研究では、ワクチンを接種した 20 歳～22 歳の女性において HPV-16 型・18 型 (HPV ワクチンによる効果が期待される型) に感染している割合が有意に低下していることが示されています。



(参照：日本人女性に対する子宮頸がんワクチンの有効性 -HPV ウイルスの感染予防効果を実証
https://www.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/10/301009_re.pdf)

⑤ 日本の接種率はとても低い！？

WHO (世界保健機構) によると、HPV ワクチンは、世界の多くの国で 9-14 歳の女性に優先的に接種されています。しかし、世界の国々が高い接種率を実現する中で、積極的接種が控えられたこともあり、**日本では接種率が 1% 以下という非常に低いのが現状です。**

(参照：WHO の HPV : [World Health Organization. Human papillomavirus \(HPV\)](http://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/human-papillomavirus-(hpv)))



(MSD 株式会社 HP : 海外の HPV ワクチンの現状「各国の HPV ワクチン接種プログラム対象女子の接種率」より
https://www.msconnect.jp/products/gardasil-silgard9/gl_hpv_vaccine.xhtml)

⑥ 健保保健師からの一言

定期的な検診の受診は、子宮頸がんの早期発見に有効ですが、細胞に異常があるかどうかを調べることから「すでに異常が起きたあと」の発見しかできません。一方、HPV ワクチンは、その異常がおきないように事前に防ぐことができます。

定期予防接種の年齢を過ぎた場合は自費での接種となりますので、対象年齢の方が周りにいる場合は、ぜひ情報の提供をお願いいたします。しかし、定期予防接種の対象者は未成年であることから、打つ、打たないはご本人と保護者が正しい情報を得た上で判断していただきたいと思います。

